

北齐兰陵王高肃墓墓碑文

一、碑阳圭额四行篆字：“齐故假黄钺太师太尉公兰陵忠武王碑”。

二、碑阳正文：18行、行36字。“王讳肃，字长恭，勃海条人，高祖神武皇帝之孙，世宗文襄皇帝之第三子也。神则龙首，元「火师而成帝，兵称虎翼，拧水母而称雄。王命守巨宝，惟卿族均大名而复始，踰盛德之后昆。抚「天潢而焕落，临地轴而彪明，祝祭孔明，史词无愧。王应含宝之粹气，体连譬之英精，风调开爽，器彩韶澈，譬兹尔不跨，玄指而扬荣，若彼高鸿，摩天霄而远翥。天保八年，起家通直散骑侍郎。」王满观兵，实惟绮岁，扶风待谓，兆复黄中，落甚不明，虽容顾问，感兴恒贯，伦望允归。九年封乐「城县开国公，食邑八百户。爰应利建，选荒邑社，求带厉之书，荷山川之锡。十年，除仪同三司。象「服画龙，辎车倚廡，馱钟犹予之爱，亦惟尚德之无。其年，进上仪同三司。游息锦组之味，云月沛「辅，推其对易淮安耻其传骚石。岭外河地穷虞汉，紫津玄塞，闲以边营，刃以屡惊。桔槔时动，将「循条务，良在懿亲。仍以本官行肆州事。王少览治章，北闾敕术束经期，乃复著民谣。又进仪同「三师。乾明元年，除领左右大将军，增邑一千户。陟降朱櫂，统兹近习，去来青屋，黜深卫奉。其年「三月，封徐州兰陵郡王。踰往上乘，更踈高宫，响白京而洧钺，振绶而交綵。皇建元年，增邑通「南一千五百户，转中领军、加开府仪同三司。爰董荣成，广命僚属，门有玳瑁之「簪，庭蹶珠茶之履，雄儿抚剑，兆止莲花，交人获藻，动成雪气。肃宗大渐，顾托受遗，丧君有君，清宫夜拜，至乃龙「山作镇，俯瞰双流，虎落旁通神「珍思，「营栉比，戎役相寻，筑速能迹，咎难其选天。世祖武成「皇帝践祚，除使持节、都督并州诸军事、并州刺史，余官悉如故。而王乃勉其耕桑，又能均其劳「逸，朝夕思念，哀矜勿喜，虽复宣光寒食之请，细饮犬马之谒，其为官效，无以过也。二年，别封钜「鹿郡开国公，食邑一千户，进领军将军。令命在「实厅武府契闻。夷险在诚，弥亮既而斗驰，惶「羯奔狐杂种肉俛。下都矢及离殿，天兵雷动。輿「往道「需而「也。」”

三、碑阴文字多已风化，刻26行，满行52字。

四、碑阴圭 额铸高肃的五弟高延宗经墓兴感诗一首，首行为标题16字，诗文共5行，每行10字，合计铸阴文满书66字。现录文如下：

“五言、王、第五弟太尉公安德王经墓

兴感：

夜台长自宗，泉门无复明。
独有鱼山树，郁郁向西倾。
睹物令人感，目拯使魂惊。
望碑遥堕泪，抚墓转伤情。
轩此终见毁，千秋空建名。”

齊故假黃鉞太師太尉公蘭陵忠武王碑

(碑陽文，此半行為篆額碑名)

王諱肅，字長恭，勃海條人，高祖神武皇帝之孫，世宗文襄皇帝之第三子也。神則龍首元

火師，元成帝，兵稱虎翼。水母有稱雄，王命守巨寶，惟卿族均大名，而復始。踰盛德之後昆，撫

天潢，而煥落臨地，軸禿彰明。祝祭孔明，史詞無愧。王應含寶之粹氣，體連辭之英精，風調開爽

器彩韶激，辭茲瓊不跨，玄指禿揚榮，若波高鴻，摩天霄，示遠裔。天保八季，起家通直散騎侍郎，

王滿觀兵，實惟綺歲，扶風待請，北復黃中，落甚不明，雖容顧問，憾與恒貫，倫望允歸。九季，封樂

城縣開國公，食邑八百戶。爰應利建，選荒邑杜，求帶厲之書，荷山川之錫。十季，除儀同三司，為

服畫龍，輜車倚殿，跌鍾猶予之愛，亦惟尚德之無。其季，逢上儀同三司，遊息錦組出味，雲月沛

輔，推其對易，準安耻其傳騷石嶺外，河地窮虞漢，紫津玄基，以邊營，刃以屢驚，禱禱時動，將

循條務，良在懿親，仍以本官行肆州事。王少覽治章，壯閑教術，東經暮，乃復著民謠，又逢儀同

三師，乾明元季，除領左右大將軍，增邑一千戶。陟降朱墀，統茲近習，去來青屋，勲深澗奉。其季

三月，封徐州蘭陵郡王，踰注上爽，更踰高宮，響白京，而消鉞，振絲綬，禿交絲，皇建元季，增邑通

岸一千五百戶，轉中領軍，加開府儀同三司。爰董榮成，廣命僚屬，門有瑤瑁之簪，庭躡珠纂之

履，雄兒撫劍，非止蓮花，交人蒹葭，動成雪氣。肅宗大漸，顧託受遺，喪君有君，清宮夜拜，至乃龍

山作鎮，俯瞰雙流，肅落南通神。珍思，扎營櫛坐，戎沒相尋，築逮能通，咎難其選天，地祖武成

皇帝踐在，除使持節，都督并州諸軍事，并州刺史，餘官悉如故。禿王乃勉其耕桑，又能均其勞

逸，朝夕思念，哀矜勿喜，雖復宣光寒食之請，細飲犬馬之謁，其為官効，無以過也。二季，別封鉅

鹿郡開國公，食邑一千戶，進領軍將軍，令命在調，實廳武府，契問夷險，在誠弥亮，既禿開馳，陸

揭奔狐雜種肉，下都矢及離殿，天兵雷動，輿羈。注道。剝。需。而。也。

古曲を蘭陵王の墓前へ

奈良の雅楽団が河北省磁県を訪問

李艶芬



上演終了後、馬忠理氏と握手する笠置侃一教授

はれるようになった。王は武藝に秀でていたが、その美貌のため、戦争のとき敵から「女性」からかわれ、非常に苦悩した。その後、王は多くの凶悪な仮面を作らせ、それをつけて戦場へ赴き敵を震撼させた。

の両日河北省磁県を訪れ、同地政府と人民の温かい歓迎を受けた。六日午後、代表团一行四十五人は、磁県劉荘村の東にある蘭陵王の墓に詣で、日本に伝来して千三百余年の歴史をもつ雅楽「蘭陵王入陣曲」を演じた。約二万の観衆がそれを堪能した。夜は、奈良雅楽団と河北省梆子劇団が磁県劇場で同じ舞台上、日本側は「蘭陵王入陣曲」を、河北側は「蘭陵王」をそれぞれ演じ、劇中の蘭陵王には、著名な芸術家裴艶玲さんが扮した。双方のすばらしい演技は、満場の拍手を浴びた。

蘭陵王と「蘭陵王入陣曲」は、なぜこれほど中日両国人民に受けるのだろうか。歴史をはるか昔に溯ってみよう。北斉の神武皇帝高歡の孫で、文襄皇帝高澄の第三子にあたる蘭陵王高粛（西曆五四三—五七三）は、文武両道に通じた北斉末期の名将だった。数多くの戦功により、五六〇年に蘭陵郡王に封じられ、蘭陵王と呼ばれた。

五六四年、北周十万の大軍に北斉の要衝洛陽が包囲されたとき、蘭陵王の率いる軍団は、周軍の包囲を突破し、さらに王は自ら五百人の騎兵を率いて縦横無尽に暴れ、周軍を総崩れさせ、北斉軍に勝利をもたらした。兵士たちは蘭陵王を英雄として称え、集団で「蘭陵王入陣曲」を創作した。その後この曲は、北斉の鄭都一帯に広まり、蘭陵王高粛の名声は日増しに高まった。だが皇帝高偉は蘭陵王の名声を嫉み、自らの皇位を守るため五七三年蘭陵王を毒殺してしまふ。

蘭陵王の死後、王をたたえた舞曲が広範に広まり、隋朝（五八一—六一八）は「蘭陵王入陣曲」を皇宮舞曲に取り入れ、唐朝中期まで宮中、民間で演奏された。ところが、唐朝玄宗李

河北省邯鄲地区対外文化交流協会、鄭城北朝史学会の招きで、奈良大学教授の笠置侃一氏の率いる南都楽所と奈良大学の二つの雅楽代表団が九月五、六

日、舞楽中の蘭陵王には、六十五歳の笠置侃一団長が扮した。楽曲、舞い姿ともに莊重、質朴で抑揚があり、千三百年前の中国古代の楽舞の風貌を再現

友好の広場

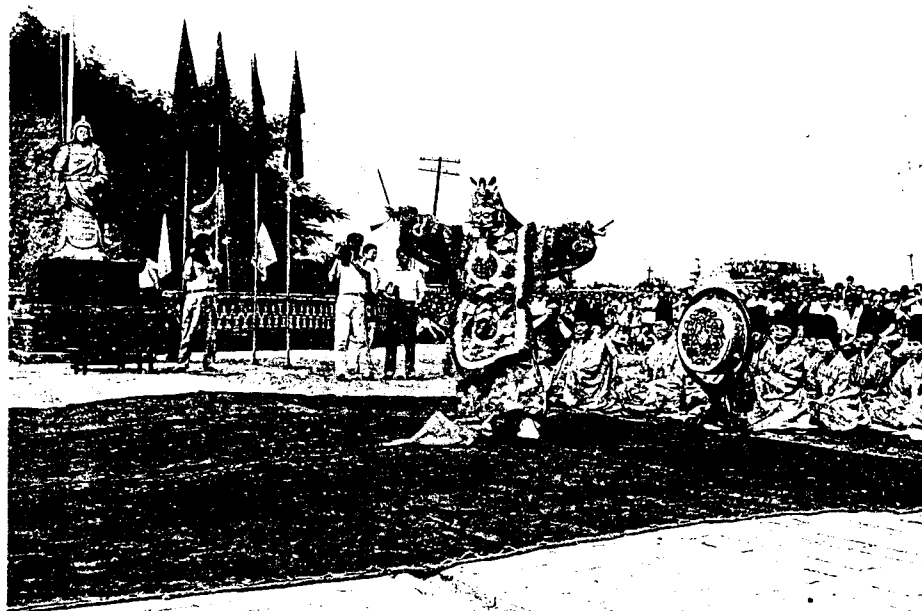
降基(六八五——七六二)は、いわれない理由をつけて「蘭陵王入陣曲」の上演を禁じた。このため、この名曲もその後中国ではだんだん消失していった。

中日間の文化交流と仏教の東伝にともない、唐代にこの曲は日本へ伝わり、日本人に歓迎された。日本古代五月五日の競馬祭、七月七日の相模祭、弓術祭や勝利祝賀祭では「蘭陵王入陣曲」が繰り返し演奏され、宮中での重要行事や宴会でもこの曲が演奏された。現在、奈良県の「春日大社」で毎年正月十五日に行われる、年に一度の日本古典舞上演では、「蘭陵王入陣曲」が「舞い初め式」の最初に上演されている。

一九八六年八月から十一月まで、中国黄河文明展覧会が日本で開かれたとき、河北邯鄲地区文物保管所副所長の馬忠理氏は、十余名の日本の専門家、教授を訪れ、日本側の協力を得て、中国では千年前から失われた「蘭陵王入陣曲」の資料を集め、曲を中国に持ち帰った。馬

忠理氏は日本滞在中、以前北京大学に留学していた宮谷文則氏の紹介で、唐代舞曲の研究、上演に四十年も打ち込んでいる笠置侃一氏と知り合った。その時、笠置氏は蘭陵王の墓が河北省磁県に今でも完全に保存されていることを知り、たいへん興奮した。そして蘭陵王の墓前に「蘭陵王入陣曲」を奉納するという長年の願いを実現したいとの希望を馬忠理氏に伝えた。

中日国交正常化二十周年、奈良大学雅楽研究会成立十周年の今年、笠置氏の一行は、中国では千年前に失われた古楽曲を携えて蘭陵王の故郷を訪れた。墓前で約三十分にわたった「蘭陵王入陣曲」の上演を終えた笠置氏は非常に感激し、馬忠理氏の手をしっかりと握りしめ、「あなたのおかげで長年の夢がかなえられ、心から感謝します」と語った。訪問を終え、磁県を離れたときは、笠置氏は「磁県を訪れたことは、生涯の最良の思い出となりました。私は蘭陵王の仮面を一生大切に保存し、この舞楽曲を日本人に伝えます。今回の訪



蘭陵王の墓前で、日本の雅楽「蘭陵王入陣曲」を奉納舞踊する笠置侃一教授

問は、私が連れて来た若い学生たちにたいへん深い印象を残したことでしよう。それは今後の中日文化交流に深い意義をもつでしょう」と語った。

八月七日早朝、雅楽代表団は

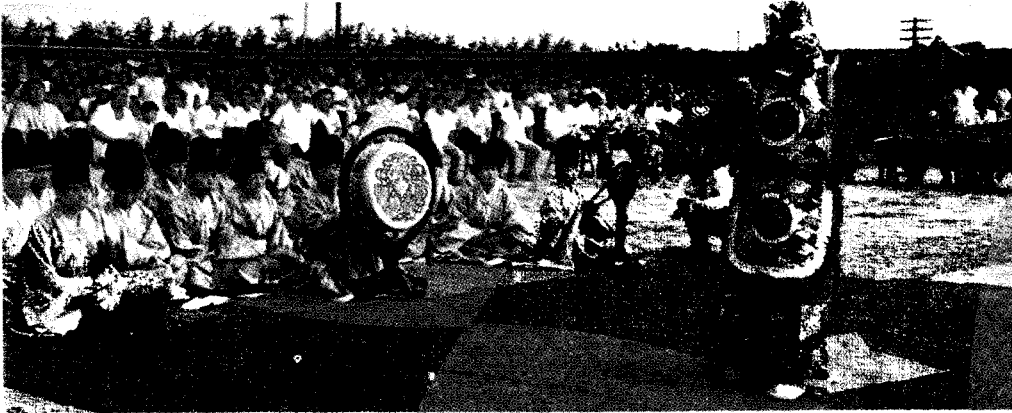
蘭陵王の故郷の人々に祝福されながら帰国の途についた。代表団の演奏した古楽曲は、蘭陵王の故郷の空にいつまでも消えることなくこだましている。

SPOT LIGHT

芸能

里帰りした『蘭陵王』 日本に保存されてきた中国の古楽

写真 陳宗烈



さまざまな中日国交正常化二十周年の記念行事が行われていた昨秋のこと、河北省邯鄲(かんたん)地区の磁県劉莊村では大勢の村民が集まって、奈良から来た日本のお客さんが奏でる妙音に聞きほれていた。

話はぐっとさかのぼって今から千四百年の昔、中国北齊王朝(五五〇〜五七七)に文武兼備の蘭陵王(らんりょうおう)という名將軍がいた。高麗はいつも仮面をかぶり、自作の「蘭陵王出陣の曲」を奏して戦った。敵はその曲を聞くだけでおじ気づいて逃げ出したという。高麗はのちに、いとこの第五代君主高緯に憎まれて自殺させられたが、蘭陵王の曲は北齊滅亡後も隋唐時代に大いに流行した。しかし晩唐ころからだんだん忘れられ、宋代になると曲名が残されるだけになった。

ところがこの曲は、遣唐使によって日本に伝えられ、日本で保存されてきたのだった。それは雅楽となり、舞踊も含めて日本民族の古典舞曲として今では重要文化財に指定されている。毎年正月十五日に奈良の春日大社でこの曲が上演されて、観衆がつかめかける。仮面、衣裳、樂器、付属具など、中国唐代の記録にあるものと大体同じだ。一九五六年、京劇の名優梅蘭芳(メイランファン)は日本公演を行ったとき、この蘭陵王を見て「中国の古典舞曲が日本に残っていると夢のようだ」と感慨をこめて語った。

ところで、蘭陵王の墓がどこにあるかは長年の謎だった。そこで邯鄲地区文物保管所副所長の馬忠理氏は苦心の末、今も磁県の劉莊村に保存されている第四十四号墓がそれにまちがいないことを確かめた。奈良の南都楽所副会長、奈良大学教授笠置侃一先生はこのニュースを知って大喜び。去年九月、楽員と共に磁県を訪れ、蘭陵王の墓前にその出陣の曲を奉納して故郷の人びとから大歓迎を受けたという次第だった。

写真上は演奏中の蘭陵王、下右は笠置先生、左は馬氏。

『人民中国』 1993年1月号より

鈴木智辨／加藤宥雄 声明大全CD版

著者贈呈分のうち、僅少残部を販売します

CD26枚、テキスト2冊、解説1冊
(総頁1,000頁)

セットの内容

CD制作 (株)テイチク

内容紹介

1, 『鈴木智辨声明大全CD版』

CD全集・CD12枚組(録音時間:平均1時間強×12枚)

この内CD-12は、

新発見資料・中川善教・鈴木智辨「声明思い出」対談集

2, 『加藤宥雄声明大全CD版』

CD全集・CD14枚組(録音時間:平均1時間強×14枚)

上記CD26枚を豪華特製箱入り、一箱とした。

付録テキスト(箱入り上製本三冊)

3, 『南山進流仮譜集上下』(鈴木智辨著)(洋版箱入り約700頁に合本)

昭和32年 高野山松本日進堂刊行和綴じ本上下二巻の復刻合本

4, 『魚山薈芥集』

明治25年刊行 葦原寂照著 現在、古書店でも入手不可能な同書復刻版、復刻原本に加藤宥雄先生所持本を使用。先生の貴重な書込みを復元。(洋版箱入り約200頁)

5, 解説書(約100頁)

(同目次) 刊行の意図(宗務総長 藤原義章) 鈴木智辨 略歴 顔写真
加藤宥雄 略歴 顔写真 父の思い出(宝積院 鈴木良一) 声明感慨
(最明寺 加藤宥雄) 刊行を祝う(歎成院 摩尼清之) 声明録音の
技術者として(元TDK録音技師太田昌純) 鈴木智辨声明口伝(唱
え方)(智辨僧正の直弟子たちが僧正の死後まとめた貴重な口伝集
の今回初公開 宝積院鈴木良一編)昭和44年刊行鈴木智辨声明レ
コード第3版「解説書」再録 全曲目一覧・全曲目索引 制作記録